MF―Tokyo2011　プレス・板金・フォーミング展

●●●●　特別協賛団体からのメッセージ　●●●●

イノベーション創出に重要

日本塑性加工学会会長
石川　孝司氏

「MF―Tokyo2011プレス・板金・フォーミング展」は今回2回目を迎えます。準備をしてこられた関係諸氏に敬意を表します。前回（2009年）の大成功を受けて今回も期待が高まっています。東日本大震災の影響がまだ残っている中ですが、この展示会が日本の復興に少しでも元気を与えることができればと願っています。

日本のモノづくりは、常に世界をリードすることでしかその存在意義はありません。新しいイノベーションを創出するには産学連携が極めて重要と考えます。日本塑性加工学会は、今回も日本鍛圧機械工業会のご配慮で特別協賛という形で参加させていただきます。この展示会は学会のプレゼンス向上に非常に有効で、今年度の学会運営の中の重要なイベントの一つとして考えています。連日開催します塑性加工学会セミナーでは、各分野の著名な研究者により、モノづくり基盤技術である塑性加工の最新技術について計24件の講演を行います。

また、大学研究室の展示ブースを開設し大学のシーズ研究を紹介します。各方面から多数の参加をいただき、活発な意見交換を通して産学連携研究につながるテーマができることを期待しています。特に中小企業の方々に学会の存在と活動を理解していただく場になれば幸いと思います。今後とも学会活動にご理解とご協力をお願いします。

最新技術・連携の成果開示

日本鍛造協会会長
竹内　雅彦氏

日本鍛造協会は「MF―Tokyo2011　プレス・板金・フォーミング展」の開催について、特別協賛団体として参加申し上げております。

わが国の鍛圧機械は、先人のご努力と長い開発の歴史を経て世界第一級の精度・剛性と生産性を確保しております。周辺機器も同様の進化をとげており鍛圧機械と一体で、わが国の加工機械産業を支えているところであります。

わが鍛造業は、生産現場におきまして、これらの優れた鍛圧機械と周辺機械を最大活用し、世界に優れた鍛造品を製造してきたわけであります。鍛造業は、鍛圧機械以外にもさまざまな機械技術を活用する技術統合的な産業であります。鍛圧機械などの進化・発展なくしては、鍛造業の進歩もないわけであります。

さらに鍛造品は塑性加工学の理論で加工が行われる分野であります。日本塑性加工学会との連携の中で論理を詰めることができ、技術課題を克服して新たな進歩につなげることができております。

このたびの同展示会で、鍛圧機械と周辺機械の最新技術が展示公開されるとともに日本塑性加工学会の産学連携活動の成果が開示され、同時にわが鍛造業の最新の姿を展示させていただけることは、誠に悦ばしい限りであります。

鍛造品はわが国産業の米と言うべき基本の素形材製造であります。鍛圧機械と周辺機械の進化、ならびに理論付けの日本塑性加工学会のご発展に連動して、わが国の鍛造品を進化発展させて参りたいと考えております。

企業の国際競争力強化

日本金属プレス工業協会会長
畫田　眞三氏

「MF―Tokyo2011プレス・板金・フォーミング展」の開催にあたり一言お祝いを申し上げます。

近時、国際化の進展によって、海外との価格競争が一層激化し、これにより、国内における新技術への取り組みが国際競争力の強化に向け一層重要となってきております。日本金属プレス工業協会では金属プレス業界の競争力強化に向け、加工技術の開発などの取り組みを積極的に推進することで、ユーザー企業の品質、納期、価格の要請に的確に応えるよう努力しているところです。

特に、国際的な大競争の中でわが国のモノづくり産業が大きく飛躍していくためには、高度なプレス加工技術とともに高精度な機械が一層求められております。

このような中で、同展示会の開催は、わが国のモノづくりの強化に大きく期待できるとともに、同展示会において関連した技術や新鋭機械の情報に触れることにより、新しい分野への展開を積極的に進めることで企業の国際競争力強化に結びつくものと確信しております。

同展示会の開催を無事迎えることができましたことを改めてお喜び申し上げるとともに、日本鍛圧機械工業会はじめ、関係する皆さま方のご発展をお祈り申し上げます。

業界越えて英知を結集

日本金型工業会会長
上田　勝弘氏

「MF―Tokyo2011プレス・板金・フォーミング展」が、このたび盛大に開催されますことを日本金型工業会を代表致しまして心よりお喜び申し上げます。

展示会の案内書にも「日本を元気に、そして世界を！」と謳っておられるように今年3月に東北地方を襲った大震災にも関わらず予定通りに同展示会が開催されることは、これもひとえに日本鍛圧機械工業会ならびに傘下会員企業、出展される関連業界の皆さま方のご努力のたまものであると思います。

東北地方の方々は、いまだに復旧、復興が続いており大変な状況に変わりがなく心よりお見舞いを申し上げるとともに、今後は業界を越えた各方面の〝モノづくり産業〟の皆さま方とともに協力して日本の〝モノづくり産業〟を元気にしていければと心より願っております。

少しばかり我々金型業界に目を転じますと3年前からの金融混乱による、不況の傷跡は一部の新興国を除き我々金型製造業に携わる皆さまの事業活動に深刻な事態を招いております。

ユーザーの海外工場の拡大による日本国内の金型業界の受注減、めどのつかない円高の加速、想像を上回るコストダウンの強制による採算性の悪化など、我々金型業界は戦後最大の試練の時を迎えております。

今こそ業界を越えた〝モノづくり産業〟が一丸となって皆さまの英知を結集しながら頑張っていかなければ将来の展望を切り開くことはできませんので、関連業界の皆さまのさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げごあいさつに代えさせていただきます。